



京都 YWCA

11 2017

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

2017年夏「日韓ユースプログラム」報告 日韓の歴史を学び、交流を深める旅



8月11～16日に、「2017夏 スタディツアー@韓国」に参加しました。ツアーのテーマは「多文化・人権・女性」でした。前半（11～13日）はソウルでテーマに沿った団体施設を訪問し、後半（13～16日）は忠州で現地のユースと交流しました（京都 YWCA と忠州 YWCA は 2015 年から毎年、日韓ユース交流プログラムを実施しています）。

ソウルで、日韓の歴史と現在の課題を考える

ソウルでは、11日に到着してまず「移住女性人権センター」を訪問しました。韓国では近年、ブローカーによる「お見合いツアー」が横行して問題になったといわれます。これは、韓国男性が東南アジア等へ出かけて結婚相手を探すというものです。センターでは、国際結婚して韓国に住むようになった外国人女性の相談に対応したり、DV被害者のためのシェルター運営を行っています。京都 YWCA で行っている APT (Asian People Together) の活動とも共通点のあるお話に、参加者一同熱心に耳を傾けました。

その後、梨花女子大学に移動して、チャン・ユンジェ教授にお会いしました。創立から現在に至るまで韓国の女性運動の中心であり続けている梨花女子大の歴史を紐解きながら、そのキリスト教基盤についても実際に大学内を巡りつつ解説していただきました。

また、12日にはDMZ（非武装地帯）の見学ツアーに参加しました。見学者が万が一危険に巻き込まれても補償請求の権利を放棄するという「宣言書」に署名したり、途中で韓国側の兵士がバスに乗り込んで乗客のパスポートを確認したりする場面もあり、常に緊張感が漂っていました。朝鮮半島における分断が現在も続いていること、そこに住む人々は「日常的」にその状況下で生活せざるを得ないという事実を突きつけられました。午後からは「戦争と女性の人権博物館」を訪問し、日本軍「慰安婦」被害者の展示を見ました。私がこの博物館を訪れるのは2014年の夏以来2回目でしたが、被害者の痛みが心に刺さると同時に、日本人として自らの立場を改めて見つめ直す機会となりました。



「戦争と女性の人権博物館」にてメッセージ掲示

忠州で、若い世代との交流を深める

13日に、ソウルから忠州へ移動しました。忠州 YWCA のユース（中高生）とスタッフの皆さんから熱烈に歓迎していただき、京都からの参加者一人ひとりの名前が書かれたボードを見て、一生懸命手作り準備していただいたことが伝わり、嬉しくなりました。

次の日は生憎の雨でしたが、忠州ダムのクルーズとスタンプラリーを楽しみながら、相互の交流を深めました。

日本では「終戦記念日」と呼ばれる15日には天安の「独立記念館」を訪れ、少人数のグループに分かれて様々な展示を見て回りました。韓国では「光復節」として日本の植民地支配から解放された記念日となっているこの日は、政府高官が記念館の広場で演説を行っていて、多くの人々が集まっていました。午後の振り返りの時間には、忠州側の参加者から「この日に日本側の参加者と共に記念館を訪れることができてよかった」という意見が多く聞かれました。



忠州 YWCA のメンバーと交流会

今後に向けて

忠州 YWCA のユースはとても活発で、言語の壁にもひるまずに身振り手振りや覚えてたの日本語の単語を使ってコミュニケーションを取ろうと頑張ってくれていました。そのパワーに刺激を受けつつ、植民地支配・戦争という日本の加害の歴史を学び続ける姿勢を忘れまいと決意を新たにしました旅でした。

（御前麻里）

スリフトセールほぼ 40 周年記念イベント Ｙ・わい楽しくエコなくらし

9月23日、「京都YWCAスリフトセールほぼ40周年記念イベントＹ・わい楽しくエコなくらし」と題して、42年間の歴史を振り返るとともに、大関はるかさん（ひのでやエコライフ研究所スタッフ）をお迎えして、「エコなくらし」についてのワークショップを開催しました。

はじめに、スリフト創設から関わってこられたロイス・カーフさんと鍛冶富美子さんのお二人から、これまでの活動にまつわる貴重なエピソードをお聞きすることができました。今から40数年前に、カーフさんと京都国際学校の保護者が、当時は珍しかったチーズやお菓子の材料などを共同購入され、YWCAの一室で販売を始められたことが、現在のロビーショップやスリフトセールにつながっています。長きにわたり引き継がれてきたこの活動は、京都YWCAの誇れる歴史の一つだと言えます。

後半は大関はるかさんのリードでグループに分かれ、頭の柔らかさを知るためのカラーイメージゲームや、エコと聞いて何を連想するのか、できるだけ多くの単語を書き出し、各グループでその内容についておしゃべりをしました。

この日は、リサイクル衣料を身につけてと呼びかけてい

たこともあり、各自の服の説明などで大いに盛り上がりました。大関さんは、各地域の学区で「捨てる神」と「拾う神」というお金の介在しない新しい形のフリーマーケットや、思い出のある洋服を人形に変身させるというワークショップを運営されています。

リサイクル衣料は自身について語ることはできないけれど、リサイクルで購入した人がその衣料を身につけ、誰かと会話することで、その衣料は再び生まれ変わります。これは、わたしたちYWCAが理想とする持続可能で環境にも人にも優しいエシカルファッションではないでしょうか。ちなみに「エシカル」とは「倫理的・道徳的」という意味です。

（イエニックふたみ）



シリーズ やっています！こんなこと③

カフェ・フリーデン「性差別を考える」 ーフェミニスト視点で探る平和への道すじー



話題提供 相方未来さん

「フェミニスト」は昔から耳にしている言葉ではありませんが、さてどういう人のことを言うのか正直私自身よくわからないこともあり、お話をしてくださった相方未来さん（同志社大学院生）に質問をしました。「性差別を問題にし、それに反対する人」「男女平等を唱える人」という答えが返ってきました。

日本社会に強固にある「男らしさ」「女らしさ」という性別役割意識と、「男らしさ」の方が優れているという考えが、女性に対する性暴力を起こし、さらに被害者に対しての差別（偏見）を生み出す事態になっていることを示す事例として、二つの性暴力事件（2015年と2016年に起きたもの）を取り上げ、テーマである「性差別を考える」ひとときを持ちました。

興味深い話のひとつに、米軍の演習では「女らしさ」の特徴である「弱さ」「優しさ」「思いやり」を徹底的に否定し、「戦う」「勝つ」「支配する」ということをたたきこま

れるそうです。このことから「性差別」は軍事主義（紛争を解決するのは力であり、そのために常に強制力である軍事力を保持するという思想）という概念と結びついており、つまり「平和」とは真反対であるということ、また「平和」を求めている私を含め、多くの人が無意識の中で「性差別」をしているのではないかという思いになりました。

余談ですが、広辞苑の「フェミニスト」の定義の中に「女に甘い男」と書かれていることに異を唱え、本来の意味を改めて載せるようにという呼びかけのネット署名があります。全くもって広辞苑も性差別を肯定するのかわかれるような表現のままにしていることに疑いと驚き、根深い偏見を感じます。

まだまだこれからも「性差別」の中で生きていく私たちが、「すべての人（多様な性）が尊重される平等な社会」を真剣に求めていくことが「平和」に繋がることだと知りました。

（木戸さやか）



保育サポーター養成講座が始まりました



京都 YWCA では、子育て中でも参加できるように、「保育」付きのプログラムを実施しています。親が子どもと離れて主体的に学ぶひとときを得て、子どもは「預けられる」のではなく安心安全なスペースで見守られながら



布を使った歌の実演

楽しく過ごし、笑顔でお母さんとまた会えるよう保育の場を大切にしています。その場を一緒に創ってくださる保育サポーターの役割はとても重要です。

第1回目は、中立保育園で長年保育に携わられた前園長の千本翠（ちもと みどり）さんに、「現代の子どもを取り巻く環境—『遊び・歌』に込められたメッセージ」と題してお話して頂きました。

少子高齢化の現代にあって、「甘やかす（親側の気持ち）」と「甘えさせる（子どもの愛情を求める気持ち）」の混同が、子どもの生きる力を削いでいるのではないかと、また、不登校やいじめの背景には、乳幼児期の育ちが深

く関わっているのではないかと指摘されました。最近では、子どもの頭上を常に飛び、子どもに危険が及びそうな時に急降下してくるような「ヘリコプター・ペアレント」が見られるそうです。これでは、子どもの経験の幅を縮めることになり、自信が持てず、人間関係を築く力が育たないと警鐘を鳴らされました。

乳幼児期の発達について、体の育ちに焦点が当たりがちですが、「心の育ち」という視点も大事であることを話されました。それには「共感」がとても大切です。子どもの言い分におとながしっかり耳を傾けることは当たり前のようで、育児の渦中にあるのは疎かになりがちです。また、喧嘩の際にも同様のことが言え、双方の気持ちに寄り添い、次に繋がる仲裁方法がいかに大切か気づかされました。

合間に、実際に保育園でされている手遊びや歌を交えて、温かく語って下さいました。それら手遊びや歌には、「一人じゃないよ、みんな違っていい、あなたはあなたのままでいい」という一貫したメッセージがありました。親も子どもと一緒に育ち合おうという姿勢を今後も大切にしたいと、多くのヒントを頂いた初回講座となりました。

（上田理恵子）

あじさい寮留学生と「すけっと」交流会



9月30日にあじさい寮留学生と、日本滞在中に緩やかに留学生の生活をサポートする「すけっと」との交流会が開催されました。14名の留学生が無事に入寮を終え、担当のすけっとが決定し、顔合わせの場となりました。

今回は中国、台湾、イタリア、アイルランド、アメリカ、フィンランド、オーストリアからです。最初に留学生が、その後すけっととスタッフが自己紹介した後、お茶を飲みながら歓談しました。自己紹介では大学で何を勉強しているのか、日本で行ってみたい場所はどこか、またお国自慢などを聞きました。伏見稲荷など京都ならではの場所、鹿が好きな奈良公園、その他日本全国いろいろな所を訪れたいとのこと。お国自慢は自国の料理という留学生が多かったので、今後は是非披露していただきたいと思います。

留学生の滞在期間は半年と1年の人が半々ぐらいです。限られた時間ですが、少しでもお互いの文化を知る機会を持ちたいと思いました。

（小栗弘美）



離職のごあいさつ — 4年半をふりかえって —

このたび、4年半勤めた京都 YWCA を離れることとなりました。私が入職した2013年は京都 YWCA 設立90周年の年で、新事業に向けた協議が大詰めを迎えていた頃でした。それから4年半の間に京都 YWCA では会館の改修工事、新事業の始動、会員活動の組織変革などが行われました。そして今もなお、法人運営の在り方について、大きな決断を迫られ続けています。

一方この間、日本社会では特定秘密保護法や安保関連法の制定、「共謀罪」成立など、先行きが不安になるような動きが相次いでおり、それは現在進行形で続いています。

京都 YWCA や日本社会を構成する一員として、私には何ができるのだろうと考えることは、終わりの見えない苦しい営みでしたし、これからもその苦しみは続くのだろうと思います。しかしこの営みの中で得られた気づきや、出会えた多くの仲間たちが、今の私を勇気づけてくれていることもまた事実です。これらを大切にしながら、私自身の歩みを続けていきたいと思っています。

（堀部碧）

今後のプログラム

◎京都 YWCA あきまつり

毎年恒例の親子で楽しめるイベントを今年も開催します。

■日 時：2017年11月12日（日）13：30～16：30
（13：00開場）

■場 所：京都 YWCA

■参加費：親子（大人1人＋子ども1人）1,000円、大人1人700円、子ども1人500円、1歳未満無料、在京避難者ご招待

■内 容：またあいに LIVE ♪／バイオリンのワークショップ／人形劇／絵本の読み語り／スタンプラリー／バルーンアート／竹パン作り／親子で指圧（別途300円）／おもちゃと絵本のリサイクル市／天然アロマで香りのジェル作り（別途100円）など

◎YMCA/YWCA 合同祈禱週集会

「インドから学ぶ～子ども達一人ひとりを育むために～」

■日 時：2017年11月25日（土）17:30～20:00

■場 所：京都 YWCA ホール

■参加費：500円（軽食付き）

■話し手：Murugan Kalirathnam さん（カリさん）

1994年アジア保健研修所研修生。南インド、ダリット（アウトカースト）の NGO Thiruppani Trast Association (TTA) のリーダー。

■申込み：要（11月17日まで）

■共 催：京都 YMCA、京都 YWCA

◎クリスマスバザール～共に生きる世界を～

多数の皆様のお越しをお待ちしております。

■日 時：2017年12月2日（土）10：00～15：00

■場 所：京都 YWCA

■参加協力金：100円

◎クリスマス集会

日本キリスト教団石山教会の須賀工牧師による礼拝があります。そのあとはクリスマス絵本やペープサートによる聖劇、歌などを一緒に楽しみましょう。お子様とご一緒の参加も歓迎いたします！

■日 時：2017年12月9日（土）13：30～15：00

■場 所：京都 YWCA

■参加費：500円（お茶菓子付き）

◎京都 YWCA チャリティコンサート キッサコ ～あなたへの伝言～

キッサコは禅語「喫茶去」に由来する男性フォークボーカルデュオです。

■日 時：2018年3月31日（土）14：00～16：00

■会 場：同志社大学寒梅館ハーディホール

■チケット：一般2500円、学生・無業者（30歳以下）1500円、障がい者手帳持参者1500円、小学生1000円

ご寄付ありがとうございました。

2017年8月1日から9月30日 寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付

中江和子、神岡秀治、匿名1名

各指定寄付

*メンテナンス募金

有田孝子

*多文化共生委員会

清水弥生、安藤いづみ、林律、永井靖二、(株)ピーコス（以上 APT へ）

*平和・環境活動委員会

鍛冶富美子（スリフトショップへ）、平和・環境活動委員会有志

*広報部

上村剛士

*自立援助ホーム「カルーナ」（教育奨励金）

竹内二三、小宮一子、上田理恵子

*自立援助ホーム「カルーナ」後援会費・寄附

山崎美和子、迫田雅代、坪野えり子、岩井一枝、木村茂、木村和子、中野加奈子、林衛、小寺敬子、横川幸治、上村愈巳子、眞下正己、上田理恵子

*賛助費

出店都、梓山悦子、福嶋瑠美子、北村保子、寺田弘、上村剛士、田中愛子、浅野久代

Y わい亭チャリティ寄席 桂九雀 落語会

多数の皆さんに落語の面白さ・楽しさを満喫していただきました。（10月14日開催）



9・10月／理事会報告

- 9月5日～16日：「うららかふえ」3周年フェア開催。ケーキセットを販売。好評につき、常時メニューとすることを決定。
- 9月16日：京都市より依頼のあった保育園開設について、総合的な視点から前向きに検討することを決め、会員・会友を対象にそれについての説明と意見交換会を実施。
- 9月23日：職員堀部碧さんが退職、10月より平城智恵子さんが新職員として着任。
- 10月14日：チャリティイベント「Y わい亭チャリティ寄席 桂九雀」を実施。
- 2018年5月「YWCA フェスタ in 京都」の内容を協議。フェスタ翌日5月21日のオプションツアー企画を提案した。
- 日本 YWCA の「地域 YWCA を主体とした活動」として展開している「三市 Y 交流会」を「会員のリーダーシップ養成を考える」交流会として継続することを協議。

KYOTO YWCA No.541

2017年11月号（11月1日発行）

発行人 上村愈巳子

発行所 公益財団法人京都 YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電 話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

U R L http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (公財) 京都 YWCA

定 価 50 円